

放射線科

1. 目標と特徴

放射線科専門医及び放射線診断専門医の養成を行う。はじめの2年間は放射線診断、3年目に放射線治療の研修を原則とするが、その時期は変更がありうる。専門医取得を目的とせず、他診療科に所属しながら放射線診断のみの研修を認めることがある。その場合には、個人の目的に合った研修プログラムを作成する。また、個人の希望に応じて他施設での研修も考慮する。

2. 指導スタッフ

教授	町田治彦（放射線科部長）
講師	荏安俊哉
講師	西川真木子
助教	山口英宣

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学附属足立医療センター（放射線科専門医修練機関）

研修協力施設：東京女子医科大学病院

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

放射線科診断医として必要な基礎知識・技術を習得し、患者、他科医師、メディカルスタッフなどとの関係を通して人間性も育成する。

B：行動目標

- 1) 放射線科診断医として必要な基礎知識を習得し、臨床に応用する。
- 2) 画像検査を実際に担当し、その方法や造影剤などに習熟し、副作用などに対処する。
- 3) 画像診断を行い、実際にレポートを作成し、上級医より指導を受ける。
- 4) Teaching fileなどで自己学習する。
- 5) 正常例、緊急を要する症例やcommon diseaseなどの最低限必要な画像診断に習熟する。
- 6) IVRに必要な基礎知識や基本手技を習得する。
- 7) メディカルスタッフと協力して患者の問題点を解決する。
- 8) 放射線治療など当施設で困難な研修に関しては、東京女子医科大学病院などで研修する。
- 9) 学内外カンファレンスに参加して、討論する。
- 10) 学会に参加して、発表する。発表内容を論文として投稿する。
- 11) 放射線科専門医を取得する。
- 12) 上記すべてに対して下級医を指導する。

C：年次別研修スケジュールと研修内容概略

1～2年	当科 画像診断、IVR
3～5年	{ 東京女子医科大学病院 放射線腫瘍科、画像診断・核医学科 当科（適宜、他施設でも研修可能） 画像診断、IVR

D：週間予定

以下は基本的なスケジュールであり、変更となることがある。

月：CT・MRI・核医学・IVRなどの検査、読影

火：CT・MRI・核医学などの検査、読影

水：CT・MRI・核医学などの検査、読影

木：CT・MRI・核医学などの検査、読影

金：CT・MRI・核医学・IVRなどの検査、読影

土：CT・MRI・核医学などの検査、読影

E：評価

各指導医から逐次評価と内容のフィードバックを受ける。

5. 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修修了後、東京女子医科大学附属足立医療センター放射線科に就職を希望するものは、当科部長と相談し、助教として採用も可能。

6. 学位

研究論文が掲載された後、当科部長との協議のもと、学位の申請が可能である。

臨床大学院入学者は4年間で研究を終え、研究論文を投稿し、学位を取得できる。

7. 専門医

放射線科専門医を期間中に取得する。検診マンモグラフィ読影認定医などの取得も可能である。

8. 問い合わせ先

〒123 - 8558 東京都足立区江北4 - 33 - 1

東京女子医科大学附属足立医療センター放射線科

部長 町田治彦

TEL：03 - 3857 - 0111

FAX：03 - 3857 - 0115

E-mail：machida.haruhiko@twmu.ac.jp

東京女子医科大学附属足立医療センター放射線科のホームページもご参照下さい。